

調査の要領

(業種別調査企業数と回答数の内訳)

	対象企業	回答数
製造業	74	72
卸売業	27	26
小売業	105	100
飲食業	31	29
サービス業	62	60
運輸業	13	12
建設業	64	62
不動産業	23	20
合計	399	381

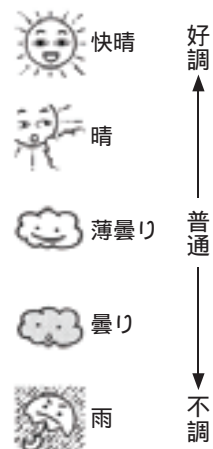
調査時期 9月上旬
 調査内容 平成22年7月～9月の景況
 平成22年10月～12月の見通し
 調査方法 当金庫職員による聞き取り調査
 調査対象 当金庫の取引先
 回答数 381先(回答率95.49%)
 (回収不能 18先)

お忙しい中、ご協力いただきまして大変ありがとうございました。お問い合わせは最寄りの営業店、または企画部《(019)623-2221》までお願いします。
 次回調査(12月上旬予定)にも、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

景況天気図

(景況調査の概況)

	平成22年4～6月期	平成22年7～9月期	平成22年10～12月期 見通し
全業種 (総合)			
製造業			
卸売業			
小売業			
飲食業			
サービス業			
運輸業			
建設業			
不動産業			



※この天気図は景況指数を総合的に判断して作成したものです。

景況総合判断指数(DI)

平成22年 7 ~ 9月

前期 *DI	当期(平成22年4月~6月期に比べて)				景況	見通し(平成22年10月~12月期)			
	増加	普通	減少	*DI		増加	普通	減少	*DI
-54	8	36	56	-49	業況	9	36	55	-50
-34	15	37	48	-36	売上高	17	39	44	-35
-35	11	38	51	-43	収益	15	41	44	-35
-22	6	66	28	-23	販売請負価格	5	70	25	-21
13	19	65	16	2	材料仕入価格	15	70	15	-2
0	11	75	14	-2	在庫	9	76	15	-6
-38	3	59	38	-35	資金繰り	3	57	40	-37
-15	7	73	20	-13	残業時間	8	75	17	-12
-1	13	72	15	-2	人手	9	73	18	-5
-12	3	81	16	-14	設備の状況	2	81	17	-13

*DI(Diffusion Index)は、増加企業割合から減少企業割合を差し引き、不変(普通)部分を除いて景況を判断しようとするものです。

*「季節調整済DI」は、1年を周期として季節的な変動を繰り返すDIから、季節の変動を除去した動向指数です。

増加・普通・減少は右のように置き換えます。

	増加	普通	減少
業況	良い	普通	悪い
価格	上昇	変わらず	下降
在庫・人手・設備の状況	過剰	適正	不足
資金繰り	楽	変わらず	苦しい

業種別業況動向

(景況調査の概況)

	平成22年4~6月期		平成22年7~9月期		平成22年10~12月期	
	実績	前期予想	実績	前期予想	見通し	
全業種(総合)	-54	-57	-49	-56	-50	—
製造業	-47	-40	-43	-45	-46	—
卸売業	-45	-70	-72	-48	-56	—
小売業	-58	-56	-51	-60	-47	—
飲食業	-75	-71	-73	-67	-62	—
サービス業	-46	-54	-35	-56	-46	—
運輸業	-25	-40	-23	-16	-59	—
建設業	-58	-68	-46	-60	-56	—
不動産業	-58	-76	-51	-68	-36	—

*DIは季節調整済 *それぞれの右欄は前期に予想したDIを示す

概況

今期の業況判断DI値は-49となっており、前期予想(-56)を7ポイント上回りました。依然として円高、デフレを背景に業況回復を妨げる要因があり、景気の先行きは不透明な状況にあります。政府施策であるエコカー減税、補助金等の効果に加え猛暑効果により個人消費の拡大につながっています。

来期の業況判断DI値は-50と今期改善の反動からか、1ポイント下降を予想しており、本格的な回復までには、依然として厳しさが続くものと思われます。

業況判断

業況は、全体では-49と5ポイント前期に続き連続で改善となりました。

来期の見通しについては、製造業、非製造業ともに後退するため、全体では小幅悪化となると予想しています。

業種別にみると、製造業では今期改善しましたが、来期の見通しについては、食料品製造業を除く他の業種で後退すると予想しています。

非製造業では、卸売業を除く他の業種で悪化が小幅縮小しました。しかし、来期の見通しについては、サービス業、運輸業、建設業の悪化を主因に、全体では再び後退すると予想しています。

売上高判断

- ◆売上高は、-36と2ポイント後退し、減収となりました。
- ◆業種別では、小売業が4ポイント、飲食業が30ポイント、サービス業が8ポイント、建設業が13ポイント改善したのに対して、製造業が28ポイント、卸売業が12ポイント、運輸業が11ポイント、不動産業が34ポイント後退しました。

- ◆来期の見通しは、-35と1ポイント改善を予想しています。製造業が6ポイント、卸売業が7ポイント、飲食業が20ポイント、不動産業が27ポイントの改善を予想しており、運輸業が横ばいの予想をしています。これに対して、小売業が2ポイント、サービス業が3ポイント、建設業が11ポイント後退を予想しています。

収益判断

- ◆収益判断は、-43と8ポイント後退し、減益となりました。

- ◆来期の見通しは、-35と再び8ポイント改善を予想しています。業種別では、製造業で13ポイント、卸売業で17ポイント、小売業で1ポイント、飲食業で24ポイント、運輸業で1ポイント、建設業で3ポイント、不動産業で38ポイント改善を予想しています。これに対して、サービス業で2ポイント後退を予想しています。

価格判断

- ◆販売価格・仕入価格は、販売価格が-23と1ポイント価格低下が強まり、仕入価格は2と11ポイントの価格上昇が弱まりました。

- ◆来期の見通しは、販売価格は-21と2ポイント価格低下が弱まり、仕入価格は-2と4ポイント価格低下に転じると予想しています。

在庫判断

- ◆在庫は、今期-2と前期適正から不足へ転じました。
- ◆来期の見通しは、今期-6と4ポイント不足幅が拡大する予想となっています。

資金繰り判断

- ◆資金繰りは、今期-35と3ポイント改善となりました。
- ◆業種別では、製造業で4ポイント、小売業で1ポイント、

飲食業で12ポイント、サービス業で4ポイント、運輸業で32ポイント、建設業で11ポイントとそれぞれ改善となっています。これに対して、卸売業で13ポイント、不動産業で16ポイントの後退となりました。

- ◆来期の見通しは、-37と2ポイント後退予想となっています。

雇用判断

- ◆人手は、今期-2と1ポイント不足幅が拡大しました。来期は-6と4ポイントさらに不足幅が拡大する予想となっています。

- ◆残業時間は、今期-13と2ポイント減少が弱まる動きとなりました。来期は-12と1ポイント減少が弱まる動きと予想しています。

設備状況判断

- ◆設備状況は、-15と3ポイント不足が増加する動きとなりました。

- ◆業種別では、製造業で2ポイント、小売業で5ポイント、飲食業で12ポイント、運輸業で3ポイント、不動産で4ポイント不足が減少する動きとなりました。これに対して、卸売業で3ポイント、サービス業で5ポイント、建設業で10ポイント不足が増加する動きとなりました。

- ◆借入金の状況は、借入実施の割合が5割を超えた業種は卸売業だけで、全体では横ばいで推移し26%の先が実施となりました。来期の見通しは5ポイント減少し21%の実施と予想しています。借入の難易度は「難しい」が20%と横ばいとなりました。

- ◆設備投資実績は、総体で車両を中心に14%の実施となりました。来期は、総体で車両を中心に11%の先が設備投資を予定しています。

経営上の問題点

	1～3月期	4～6月期	7～9月期
売上の停滞・減少	70%	67%	66%
同業者間の競争の激化	43%	39%	39%
利幅の縮小	34%	36%	32%

「売上の停滞・減少」が1ポイント、「利幅の縮小」が4ポイント下降し、「同業者間の競争の激化」は、横ばいとなりました。

景況の推移

* 前期比：DI・季節調整済

